

上位・関連計画

- 【県】
 - ・但馬地域ビジョン
 - ・但馬地域都市計画区域マスタープラン
 - ・ひょうご公共交通10カ年計画
- 【市町】
 - ・基本構想（豊岡市）
 - ・総合計画（養父市、朝来市、香美町、新温泉町）
 - ・都市計画マスタープラン（豊岡市、養父市、朝来市）
 - ・立地適正化計画（朝来市）
 - ・地域公共交通網形成計画（豊岡市、朝来市、北近畿タンゴ鉄道沿線地域）

【国】地域公共交通活性化再生法の改正

アンケート結果

- ・高齢者含め、自分で自家用車を運転して移動する人が多い。それ以外では、送迎が多く、公共交通はあまり利用されていない。
- ・運転できない人は、運転できる人に比べ、外出頻度が低い。
- ・公共交通は不便であると認識されている。
- ・バスの改善点は運行本数の増加など利便性の向上が挙げられている。
- ・デマンド方式、地域主体の公共交通は3～4割の利用意向が見られる。予約などの煩わしさや気遣いなどの抵抗が課題。
- ・公共交通は対策を講じてでも維持が必要という意見が多い。
- ・バス停までの距離がバスの利用に与える影響は少ない。

地域特性

課題

地域の移動に関する事項

- ・点在する集落の人口減少
- ・公共交通空白・不便地の移動手段の確保
- ・生活圏の広がりによる移動範囲の広域化
- ・高齢者など運転できない人の増加
- ・利用者の減少
- ・生活時間に合わない公共交通の運行時間
- ・移動制限がある人の外出機会・交流機会の減少
- ・利用状況にあわない車両サイズ
- ・季節に伴う需要の変動

公共交通の持続に関する事項

- ・公共交通に関する公的負担の増加
- ・運転手等の人材不足
- ・車両の老朽化と更新

公共交通の利用に関する事項

- ・乗継利便性の低さや待合環境の悪さ
- ・高齢者の増加とバリアフリー対策の遅れ
- ・利用者目線に立った情報の提供不足

地域交流に関する事項

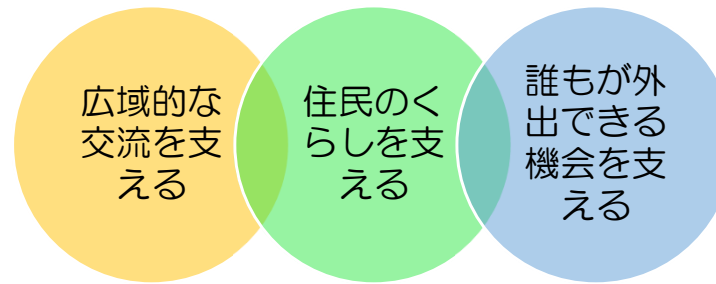
- ・観光施設をつなぐ二次交通の不足

地域の取組に関する事項

- ・地域の公共交通に関する問題意識の低さ

基本的な方針

■但馬地域の公共交通の役割



■地域が目指すべき姿

住民が安心してらせる
訪れる人が快適にすごせる
但馬

目標

目標① 地域のくらしを守る

地域住民の生活圏を踏まえた公共交通ネットワークを構築し、公共交通空白地や公共交通不便地における、移動手段の確保を目指す。

【指標】

- ・市町をまたぐコミュニティバスの路線数
- ・公共交通空白地の割合（人口・面積）

目標② 持続可能なサービスを提供する

効率的な運行や、バス運転手等の確保により、持続可能な公共交通を目指す。

【指標】

- ・路線バス・コミュニティバスの収支率
- ・住民1人あたりの公共交通への公的資金投入額

目標③ 誰もが使いやすいようにする

利用環境の向上を図り、誰もが使いやすく、安全・安心に利用できる公共交通を目指す。

【指標】

- ・路線バス・コミュニティバスのノンステップバス導入率

目標④ 観光交流を促進する

観光地と交通拠点を結ぶ公共交通サービスを充実させることにより、観光交流による地域活性化を目指す。

【指標】

- ・駅と観光地をつなぐバス路線数
- ・たじまわるの利用者数

目標⑤ 地域でまもり育てる

公共交通の課題を、住民、交通事業者、行政等で共有し、公共交通の維持・活性化に向けた取り組みを一体となって推進する。

【指標】

- ・公共交通利用促進事業の実施件数

【総合評価指標】

- ・地域住民の公共交通の満足度
- ・路線バス・コミュニティバスの住民1人あたりの年間利用者数

目標達成のための施策

施策1-1 地域特性に応じた移動手段の確保

- 主な施策
- ・幹線バスの再編
 - ・生活圏に合わせたバス路線の設定
 - ・生活スタイルや季節に応じたダイヤ・運行形態の設定
 - ・タクシーによる外出支援
 - ・地域主体の公共交通による移動手段の確保
 - ・グリーンスローモビリティによる移動手段の確保
 - ・他分野との連携によるコミュニティバス一元化（スクールバス・送迎バス等）
 - ・貨客混載等による新たな収入源の確保

施策2-1 公共交通維持のための効率的な運用

- 主な施策
- ・車両サイズの最適化

施策2-2 公共交通を担う人材・資源の確保

- 主な施策
- ・バス運転手の確保

施策3-1 公共交通を安全・安心に利用できる環境の整備

- 主な施策
- ・バリアフリー対策の推進
 - ・乗継箇所の整備と待合施設の機能強化

施策3-2 公共交通の利便性の向上

- 主な施策
- ・ICT技術を活用した利便性の向上
 - ・交通結節点における乗継の円滑化

施策4-1 公共交通による観光客の周遊促進

- 主な施策
- ・交通結節点から観光施設への二次交通アクセスの強化
 - ・観光施設と連携した公共交通案内の充実

施策5-1 公共交通施策を推進する体制の構築

- 主な施策
- ・自家用有償旅客運送等を担う住民団体の育成・支援

施策5-2 利用促進活動の推進

- 主な施策
- ・公共交通に関する情報発信
 - ・公共交通利用促進イベント等の実施

基本的な方針

■但馬地域の公共交通の役割

広域的な交流を支える

但馬地域では、医療機関、教育機関等の都市機能が豊岡市や鳥取市の中心部に立地しており、市町間をまたぐ移動を支える役割を担う。
また、広く点在する観光拠点への移動のためには、広域的な移動を支える役割を担う。

住民のくらしを支える

但馬地域では、通勤・通学、買い物、通院など、日常生活において、市町の中心部への移動が必要である。市町の中心部から離れた地域に住む人々にとって、公共交通は移動手段として、日常のくらしを支える役割を担う。

誰もが外出できる機会を支える

但馬地域では、自家用車の利用率が高く、学生や高齢者等の多くは、家族等の送迎に頼っている。公共交通は自分で自家用車を運転できない人の外出機会を支える役割を担う。

■地域が目指すべき姿

住民が安心してくらせる
訪れる人が快適にすごせる
但馬

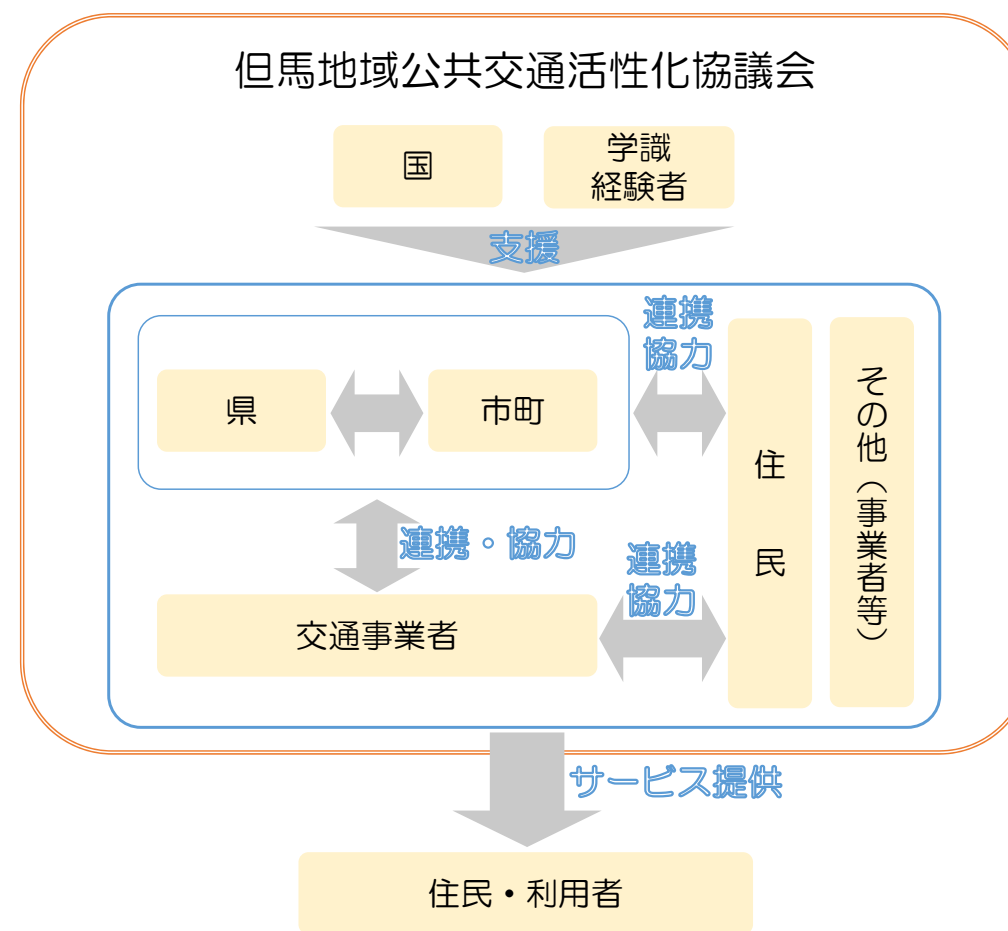
公共交通で、誰もが自由に移動できる環境を確保することにより、住民が安心して生活することができる地域、及び、観光客が快適にすごすことができる地域を目指す。

目標値

目標	指標	現況値	目標値
①	市町をまたぐコミュニティバスの路線数	2本	3本
	公共交通空白地の割合（人口・面積）	（人口）13% （面積）14%	（調整中）
②	路線バス・コミュニティバスの収支率	（精査中）	現状維持
	住民1人あたりの公共交通への公的資金投入額	（精査中）	現状維持
③	路線バス・コミュニティバスのノンステップバス導入率	（精査中）	（調整中）
④	駅と観光地をつなぐバス路線数	（精査中）	（調整中）
	たじまわるの利用者数	（精査中）	（調整中）
⑤	公共交通利用促進事業の実施件数	（精査中）	（調整中）
総合評価	地域住民の公共交通の満足度	13.8%	15%
	路線バス・コミュニティバスの住民1人あたりの年間利用者数	9.2人	現状維持

実施体制

公共交通の維持・活性化に向けて、国、県、市町、交通事業者等が連携し、但馬地域公共交通活性化協議会を継続的に開催することで、施策の実施、評価、改善を行い、実効性のある施策展開を図る。



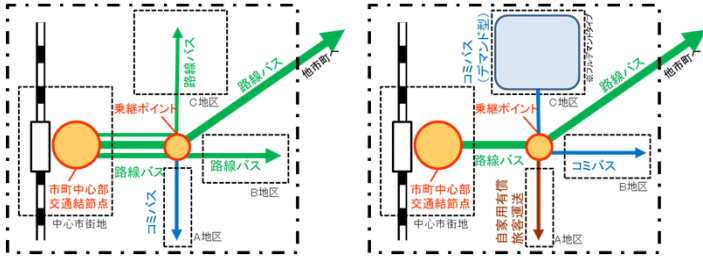
取り組みの事例

施策1-1 地域特性に応じた移動手手段の確保

幹線バスの再編

地域における持続可能な公共交通ネットワークを確保するため、バス路線の機能を整理し、効率化及び利便性のバランスを確保しながら再編・再構築を推進する。

イメージ) バス路線の再編・再構築



出典：ひょうご公共交通10ヵ年計画

生活圏に合わせたバス路線の設定

住民の生活圏や需要に合わせたバス路線を設定し、公共交通の利便性向上を図る。

例) 複数市町による運行(福崎町・市川町・神河町・姫路市)



出典：ひょうご公共交通10ヵ年計画

生活スタイルや季節に応じたダイヤ・運行形態の設定

住民の移動する時間帯や季節による需要の変化に応じたダイヤや運行形態の設定を行う。

例) 全但バス神鍋線ナビ

出典：全但バスHP

タクシーによる外出支援

公共交通空白・不便地において、駅やバス停までの末端交通手段として乗合タクシー、乗用タクシーを活用し、外出を支援する。

例) 予約型乗合タクシー「ほほえみタクシー」(上郡町)



出典：上郡町HP

グリーンスローモビリティによる移動手手段の確保

駅やバス停までの移動手手段がない地域や道路幅の狭い地域、傾斜地などでの末端移動手手段としてグリーンスローモビリティなどを活用する。

例) グリーンスローモビリティ実証実験(朝来市)



出典：朝来市HP

貨客混載等による新たな収入源の確保

新たな収入源を確保するため、貨客混載など、旅客運送サービスと他のサービスの複合化を図る。

例) 全但バスとヤマト運輸連携による貨客混載(豊岡市)



出典：ヤマト運輸HP

地域主体の公共交通による移動手手段の確保

自家用有償旅客運行制度等を活用して、地域住民等が主体となり、地域の移動手手段の確保を行う。

例) 自家用有償旅客等運送事業「やぶくる」(養父市)



出典：養父市

他分野との連携によるコミュニティバス一元化(スクールバス・送迎バス等)

他分野で運行している輸送サービス(スクールバス・送迎バス等)とコミュニティバスの連携により、安定的な公共交通の運行を図る。

例) コミュニティバスの一元化(神河町)



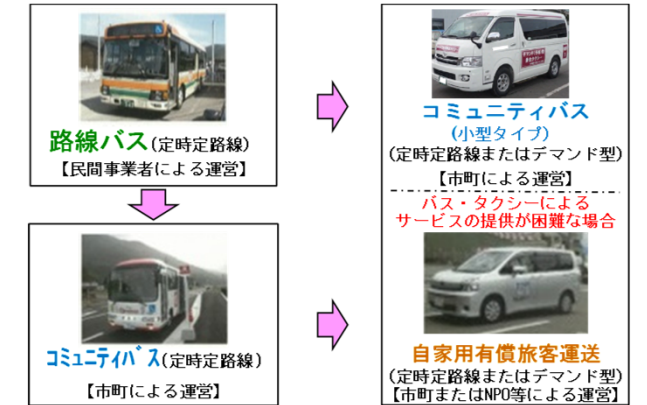
出典：神河町HP

施策2-1 公共交通維持のための効率的な運用

車両サイズの最適化

地域の実情に応じた運行形態の見直しにより、車両サイズの最適化を図る。

イメージ) 車両サイズの最適化



出典：ひょうご公共交通10ヵ年計画

施策2-2 公共交通を担う人材・資源の確保

バス運転手の確保

バス・タクシー等の運転や整備に携わる人材不足に対応するため、人材確保・育成や職場環境の改善に取り組む。

例) 女性運転手登用にに向けた説明会(全但バス)

出典：全但バス

例) 宍粟市とウエスト神姫の募集チラシ

出典：近畿運輸局資料

取り組みの事例

施策3-1 公共交通を安全・安心に利用できる環境の整備

バリアフリー対策の推進

バス・タクシー車両の更新に合わせ、バリアフリー車両の導入を推進する。

例) ノンステップバス(山陽バス)、UDタクシー

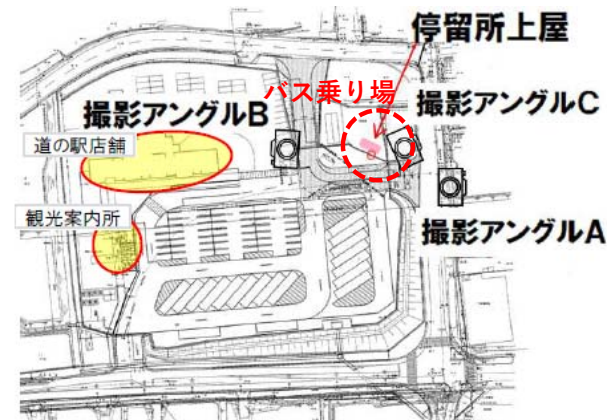


出典：ひょうご公共交通10ヵ年計画

乗継箇所の整備と待合施設の機能強化

既存施設を活用した乗継箇所の整備や、ベンチ、屋根の設置など、鉄道やバス停の待合空間の改善を図る。

例) 道の駅「ようか但馬蔵」を活用したバス乗継拠点(養父市)



出典：ひょうご公共交通10ヵ年計画

施策3-2 公共交通の利便性の向上

ICT技術を活用した利便性の向上

ICT技術を活用し、スマートフォン等で経路検索・予約・決済方法・観光情報等のサービスを提供することで、移動利便性の向上を図る。

例) コミュニティバスのPayPayの導入(奈良県広陵町)



出典：広陵町HP

例) MaaS (AIオンデマンド交通) の実証実験(京丹後市: WILLER)



出典：WILLER TRAINS HP

交通結節点における乗継の円滑化

交通結節点において、鉄道とバスの乗継時間案内を分かりやすくするなど、乗継の円滑化を図る。

例) 駅構内設置型の「えきバスびじょん。」



出典：えきバスねっと。HP

施策4-1 公共交通による観光客の周遊促進

交通結節点から観光施設への二次交通アクセスの強化

鉄道駅から観光地へ直接行けるよう、二次交通アクセスの強化を図る。

例) たじまわる(全但バス)

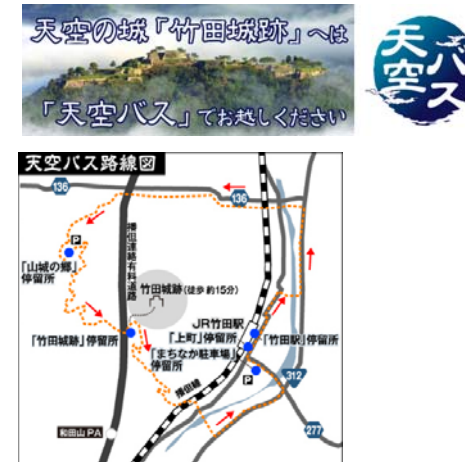


出典：全但バスパンフレット

観光施設と連携した公共交通案内の充実

観光施設と公共交通が連携し、アクセス方法や時刻表などの情報発信を行う。

例) HPによる竹田城跡への公共交通案内(全但バス)



出典：全但バスHP

例) まち歩き案内所「松籟庵(しょうらいあん)」(JR浜坂駅前)



施策5-1 公共交通施策を推進する体制の構築

自家用有償旅客運送等を担う住民団体の育成・支援

住民が主体となり地域の移動手段の確保を行う場合、立ち上げ費用や運行経費を支援する。

例) 「地域主体の公共交通 チクタク」(豊岡市)



出典：豊岡市HP

施策5-2 利用促進活動の推進

公共交通に関する情報発信

時刻表作成や広報への掲載など、公共交通に関する情報を積極的に発信する。



出典：豊岡市HP

出典：朝来市HP

公共交通利用促進イベント等の実施

公共交通のイベントや説明会などを開催し、利用促進を図る。

例) イナカーウォーキング(豊岡市)



出典：豊岡市地域公共交通網形成計画